

令和4年度第2回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和5年2月24日（金）15時50分～17時00分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	田中 とし子	教育委員	西堀 政幸
教育委員	宮内 慎也	教育委員	西川 紀栄

【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	土屋 大祐
学校教育係長	原 隆史	こども育成係長	増田 義和
生涯学習課			
図書係長	朝比奈 誠	社会教育係長	中堀 啓司
企画課			
課長	鈴木 浩之	企画調整係長	藤井 数仁
主事	竹見 裕野		

傍聴者： 報道関係3名

1 開会 15:50

2 あいさつ

・市長

本日は、宮内委員と西川委員という新しい委員をお迎えしての初めての会議になる。

新型コロナウイルス感染症対策がこれまでと違う新しい局面に向かっている。3月にはマスクの取扱いが変わり、5月の連休明けには5類への引き下げがある。マクロとミクロの色々な4種類の空間、すなわち、地域社会、学校教育現場、家庭、最終的に子どもたち自身はどうするのか、さまざまな空間においてどのような対策が求められるのか考えなければいけない。

昨年からグローバルCITYプロジェクトが始まっている。グローバルCITYプロジェクトには2つの柱があり、大きく分けて「まちづくりと人づくり」となると思う。この「人づくり」の中でメインが教育になる。県立高校の在り方検討も進められている。少子化が進む潮流の中で、いかにしてコンパクトでかつ質の高い教育を行うかということについて真剣な議論をして、実際に現地で進めている。

中学校も統合して1年が経つので、この振り返り、来年度への取組みといった、さまざまな時空間での我々のなすべきことは何なのかということ、ぜひ皆様のお知恵を頂戴しながら進めていきたい。

・教育長

今、市長からグローバルCITYプロジェクトの話があったが、新中学校は1年目が終わろうとしている。グローバルCITYプロジェクトにどう賛同していくか、どう活躍の場を子どもたちに作っていくか、1年間過ごしながら考えてきた。1年目は学校をまとめていくことが大事だと思うが、この土台を基に2年目、3年目という勢いが大事だと思っている。このグローカ

ルCITYプロジェクトにおいて、少しでも子どもたちの活躍の場があるよう願いながら来年度に向けて、皆様の力を得ながら頑張っていきたい。1つの中学校ではあるが7つの小学校を背負っているので、小学生、幼保含めて子どもたちと共にという気持ちでいきたいと思っている。よろしくお願ひします。

3 報告事項

(1) 令和5年度学校教育の基本方針（案）について

- ・事務局（学校教育課参事）より資料1に基づき説明。
※資料2、資料3はグローバルCITYプロジェクト参考資料。

【質疑、意見等】

・市長

新中学校になり1年が経過する。それをどう振り返り、どう分析し、それがどのように令和5年度という2年目に繋がっていくのか、活かされていくのか、説明を加えてほしい。

・学校教育課参事

色々な心配や不安がある中で下田中学校が動き出したが、今学校と確認しているのは、子どもたちが非常にいきいきと活動している様子が見られるということ。中学校ほどの段階になると、人数がそろい競い合ったり学び合ったりと効果を得ていると感じている。当初不安視されていた、環境が変わることで適応できない子どもがたくさん出ないだろうかという不安については、個別にないわけではないが、学校生活を豊かに送られていると感じている。また、部活動等、自分の興味のあることについて取り組むことができている。例えば、総合文化部の取組みで、自分たちの興味のあるものについて情報発信する等、活躍の場が挙げられる。

そして、広域で通っているため、通学についてはより円滑に進めるべきとしているところだが1年が経過する。これから2年目、子どもたちは安定、充実した生活を送ることができているので、内容として、探求すること、興味ある活動を追求することがよりできるのではないかと思う。各教員もそれぞれアイデアを出しながら、総合的な学習の時間や日々の授業に取り組んでいく。そういうものを充実させていきたい。

・市長

今回作成した取組1から5の中に分析結果をどのように差し込んだかを聞きたい。今、言ったのは振り返りなので、だから来年度はぜひここを頑張りたいということ、これについてはどうか。

・学校教育課参事

下田中学校の取組みと全体の取組みに違うところがあるため、中学校の分析をそのまま全体の取組みに上手く載せることができていると感じている。中学校の新たな取組みについて教育委員会で考えていたが、例えば、多様な見方や国際感覚を育む活動、地域への愛着、国際的な視野を養うことが来年の探求の時間の中心になってくると考えている。

・教育長

統合するときに心配していたことが多々ある。通学、部活動、人間関係（友達関係）のこと。学校で大事なこととして授業が第一になるが、その土台となる人間関係、学級づくりがどうか、生活基盤で心配していた。学校経営においては、市で1つの中学校なので、

この基本方針がすべての中学校と合致しなければいけないという考えがあった。今年1年間はどのような学校の動き、子どもたちの動きがあるのか、手探りの状態でやってきた。実際に、令和4年度の基本方針をどこまで実施できたか数値で検証はできていなかった。グローバルCITYプロジェクトが昨年1月に出され、今回、昨年の基本方針にグローバルCITYプロジェクトを加えて、学校生活が安定したところで、学校生活にどう乗せていくか。また、グローバルCITYプロジェクトを考えていくときに、スパンをどう考えていくか、どの辺りを目標にやっていくか戸惑っているところ。市長の言うように、検証結果がどこに表れているか明言できないのが1つの反省点だと感じている。1つの学校生活そのものの土台作りをする中で、なかなか自分たちとしては検証しきれなかったことがある。2年目以降さらにバージョンアップしていくために、2年目、3年目はもっともっと大事になってくる。

・市長

PDCA というのがあり、計画、実施し、それを評価し、その評価を踏まえてどこを改善すべきかということ提案し、その提案に基づいて計画していくというもの。Aの次はPのバージョン2となる。中学校だけでなく小学校においてもGIGAスクール構想が展開されている。コロナについては5月の連休明けから大きな局面の転換がある。それらをどこに入れ込んだのか。具体的には、ハワイに子どもたちを派遣する話は書いてあったと思うが、根拠として単純な「国際感覚を身につけます」とするよりも、「具体的にこういうことをやって子どもたちが国際というものに興味を持ち始めていきます。そして受け入れ体制、派遣体制もだんだん作られてきている。だから今度は実際に行ってもらおう。」とする方が良いのでは。コロナ、GIGAスクール、グローバル、中学校の統合等、色々なものが含まれているということの説明していただければ良かった。

図書館についても同じだろうか。本を読む機会というのは取組のどこに入っているのかわからないが、これまでの何かを踏まえて良いプランができたのでDo（実行する）、実際にやってみるとということだと思う。

コロナについても、こうなるから学校教育現場ではこうしたいとすること。例えば、現状と課題に、変化を前向きに受け止めしなやかに対応していく力が必要とあるが、だから新しい局面においてどうするのか、私たちの新しい教育はこういうことを考えているという前向きなメッセージを教育委員会で基本方針（案）に示し皆様に叩いていただいて提案にしていくという意識を持ち、説明の仕方を工夫していただきたい。

・田中委員

教育大綱を基に5年間こうやっていこうという1年目。各学校では学校評価をしている。学校評価をどのようにしているか、その評価を見れば成果、課題が明確になると思う。目標を1年間で達成するというのは難しいことである。しっかり丁寧にやっていかないと学校教育目標が達成するというにはならない。どこまで進捗があったのかということを見届けていくことが必要だと思う。

・学校教育課参事

課題と思ったことを前向きなメッセージとして考えなければならない。それぞれの学校の具体的な課題を再度確認して方針に反映させていきたい。

・教育長

統合前にこういう学校にしたいという話を色々な会議でしてきた。学校と教育委員会とで話合の中で教育基本方針を作ってきたと思う。コロナの影響や統合によりなかなか達成

できないものもあるが、理想を求めてその姿を作り上げてきたのだと思う。それをしっかり検証していかなければいけない。来年度はグローバルCITYプロジェクトを盛り込みながら各学校でやっていきたいと思っている。

・市長

基盤整備について通学路もこれに当たる。協議会においてもPDCAで少しでも安全性を高めようとしている。来年度はもっとこうするということが必要だと思う。安全に通える通学路空間の改善も入れてもいいのでは。

・教育長

具体的なことは書き切れていないが、市長の言うとおり、通学路の安全確保に向けた取組の推進は当然必要なことだと思う。

・市長

関連予算のところ今年実施することがあっても良いのでは。通学路について、鍋田の歩道が狭くて危険な箇所がある。放置してはいけない。できる限りの安全策を実施しなければならない。具体的に予算確保の状況や土木事務所へ要望する等示していただきたい。

・教育長

路側帯が狭い道路は稲生沢にもある。下高生と行き違いになり車道にはみ出して通ることがある。これに対して学校は指導している。子どもは自分の判断力で歩くことも必要であるが、子どもを危険にさらしてはいけない。大人ができることとしては、協議会等の場で要望を出していきたい。

・学校教育課長

学校教育課と建設課から下田土木事務所に依頼し、土木事務所から所有者へ連絡を取っていただいた。段差により水たまりができたり、段差で転倒し大事故に繋がったりする恐れがあるため話し合いをもち、歩きやすくしようとなったが、所有者と連絡が取れず、今はグリーンベルトの状態になっている。

市長の指摘のとおり、関連予算について来年度の具体的な取組や力を入れて取り組んでいく部分の記載が必要だったと感じている。また、12月の交通安全期間から職員が実際に通学路を歩いて点検することを始めた。全部はまだできていないため、来年度もこのような取組を続け危険箇所の改善に努めていきたいと思っている。

・市長

タブレットがあり、外国と情報のやりとりがあまりお金をかけずにできる時代になっている。昨年の黒船祭のオープニングで中学生がアメリカの中学生と意見交換をする場を設置した。そのようなことが取組1の外国の文化を学ぶことに当てはまるのだと思う。既存の取組だけでなく新しい取組みとしてどのようにしていくか見えたらいと思う。新しい委員さんから率直な意見や感想をお願いします。

・西川委員

保護者の立場で今まで見てきた。役員の方で通学路の危険箇所について話し合っていると聞くが、なかなか実現しない中で子どもに気をつけるよう声かけをしている。先日参観日がありタブレットを使用する場面を目にした。全員が写真を撮って共有していた。更に広げて色々なことができるのではないかと感じている。

・宮内委員

GIGA スクール構想について、全教科でタブレットを使用しているのか。

・西川委員

色々な教科で使っているようだ。子どもたちも他の児童、生徒の考えを共有でき、コミュニケーションツールとして活用できていると思う。

・学校教育課参事

課題もあり、教科を問わず活用するが毎時間使えるわけではない。場面によってタブレット活用のメリットデメリットがある。また、教員の技能も課題としてある。

・西川委員

インターネット社会で海外とすぐに繋がることができるので、週1回海外の学生とオンライン授業をしたり、またニューポート市が姉妹都市なので週1回、月1回、英語で話したりするコミュニケーション作りがもってこいだと思う。

また、下田を感じる、味わう、好きになる取組について、北海道のワーケーション事例がある。北海道で2週間ワーケーションで滞在し、住居を町が負担、子どもは幼稚園で地元の子どもたちと触れ合える。人口減少が進む下田でもこのような事業を実施できたら、これがきっかけで下田に来てもらえると思う。自分自身もそうだが、下田出身ではないが下田が気に入って移住する方はいる。ぜひ、この下田を感じる、味わう、好きになる取組で下田に来てもらい、将来的に下田に戻ってきてほしい。

・西堀委員

中学生が下田高校ではなく市外の高校へ行くことがある。どうしてかと感じている。以前、中学生に下田高校野球部の活躍する姿を見せる機会があったという新聞記事を見た。野球のみならず、高校生の活躍する姿をぜひ中学生に見せてほしい。下田中学校から下田高校へという願望が強い。宮内委員の言うように、下田は本当に良いところ。しかし、少子化が進み、稲梓小学校は児童が約50人。白浜へ移住し、稲梓では畑や田んぼをやる人もいる。テレビで移住希望ランキングで静岡県が3年連続1位と言っていたが、なぜ下田には若い方が来ないのだろうか。仕事がない等の理由だけではないと思う。自然は素晴らしいが、自然で生活ができるわけではないのだから、そこをもう少し上手く行政側で若い世代を呼べないのかとってしまう。

・企画課長

ワーケーションについて、比較的若い世代で下田に来る方は多いが、次の課題になっているのが、テレワークや家族でワーケーションをしたいという希望が非常に増えていると聞いている。学校は教育課程や出席日数等の問題もあり難しいが、今後、家族向けのワーケーションについて十分進めていく余地があると思う。下田中学校、高校ともっと連携して生徒、職員、地域等と連携し、いろいろな形でできることをしていきたい。

静岡県は移住が日本一である。下田市も絶対数としての動きは少ないが、ここ最近では頑張っている。昔は移住者はお年寄りや引退された方のイメージが強かったが、今は若い方、若い家族の移住が増えており、地域おこし協力隊を入れて取り組んでいる。若い世代を移住の受け入れに力をいれていきたい。

・市長

人口減少関連で、色々なメディアから市長アンケートが来る。少子化に関して、市長と

して何が必要だと思うかという問いがあり、病院と回答したことがある。人命を救う重要な社会インフラであり、下田地区は残念ながら医療資源が質量共に不十分である。病院経営は人口との関連性があり、どうしても市場規模が小さく医療資源として投入しても赤字になってしまうため、そうならないよう経営している。そうすると、順天堂病院までのアクセスを良くしようという考えが出る。伊豆縦貫道については、将来的に下田に暮らしながら菰山高校に通えるような時代が来るということを見越しても良いと思う。教育の基盤を整備するというのは、このようなどころにもやがては効いてくる。働き場所がないという課題も色々な形で乗り越えていくことができる。

そして、我々市民側の意識も変えなければいけない。ここはだめと言うのではなく、こういう場所だからこそできること、また地域の魅力、今の魅力、将来的な魅力を考えることが必要だと思う。

教育に関して、野口観光という下田出身の方がずっと寄付をしてくだっており、その2代目の方が先般亡くなられ、お別れの会に教育長が出席した。教育長から報告をお願いします。

・教育長

初代の野口秀次さんが幼少期、父の容態が悪いことを知った担任の先生が、当時貴重だったと思われるはちみつを一升瓶でお見舞いに持ってきてくれた。その後、北海道で起業してからもそのことが忘れられず、下田のために何かできることはないかと、平成10年度頃から10回ほど子どもたちのために使ってくださいと、遺志を継いで秀夫さん、和秀さんから総額1億円寄付をしていただいた。下田市はこれを教育基金として高校進学の子どもたちへ、その他体験学習プログラムや英検検定料の補助等に使わせていただいている。残り3,700万円ほどあり大事に使わなければいけない。スケールの大きさを感じたお別れの会で、すごい方に下田市も支えていただたと感じている。

(2) 図書館整備計画基礎調査 経過報告について

・事務局（生涯学習課長）より資料4、資料5、資料6に基づき説明。

【質疑、意見等】

質疑や意見はない。

・事務局（企画課長）

議題1については、皆様から意見を頂いたので、事務局にてとりまとめ作業を進めていく。議題2の図書館については、学生を交えたワークショップを予定している。今後も進捗に合わせて情報共有し進めていく。

4 その他

5 閉会 17:00